

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	16-132	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Demographic and lifestyle factors and survival among patients with esophageal and gastric cancer: The Biobank Japan Project. 食道癌、胃癌患者の生存者と人口統計学的要因・社会要因：バイオバンクジャパン		
<b>執筆者</b>		
Okada E, Ukawa S, Nakamura K, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Ninomiya T, Kiyohara Y, Muto K, Kamatani Y, Yamagata Z, Kubo M, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group., Tamakoshi A.		
<b>掲載誌</b>		
J Epidemiol. 2017 Mar;27(3S):S29-S35. doi: 10.1016/j.je.2016.12.002. Epub 2017 Feb 9.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
食道癌、胃癌、バイオバンクジャパン、体重、飲酒		28190659
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 日本における胃癌・食道癌の生存者と社会的背景について検討した。		
<b>方法：</b> 2003-2007年にバイオバンクジャパンに登録された24-95歳、食道癌365人、1,574人の胃癌患者を対象とし、交絡因子を調整しCoxハザードモデルで総死亡に対するハザード比(HR)と95%信頼区間(CI)を算出した。		
<b>結果：</b> 食道癌では213人を中央値4.4年間追跡した。過去の飲酒習慣を持つ群での死亡リスクは、飲酒習慣がなかった群と比較しHR=2.37(95%CI 1.24-4.53)と高かった。胃癌では603人を中央値6.1年間追跡した。やせの群での死亡リスクは正常体重の群と比較しHR=1.66(95%CI 1.34-2.05)と高かった。また、週3回以上の運動習慣がある群での死亡リスクは運動習慣のない群と比較しHR=0.75(95%CI 0.61-0.93)と低かった。しかし、病期のステージについては多くの症例で把握できなかった。		
<b>結論：</b> 食道癌患者では、飲酒と予後不良は関連していた。胃癌患者では低体重が予後不良と関連があった一方、運動習慣は予後良好との関連を示した。		